

# 「西浦焼」赤れんが知って

## 多治見の安藤さん 冊子を自費出版

多治見市文化財審議会長の安藤貞男さん(八七) 同市生田町Ⅱが、「西浦焼」の赤れんがについてまとめた冊子を自費出版した。れんがで築かれた旧国鉄中央線14号トンネルの調査研究の成果や、「当時の東京駅建設にも使われた」との説など興味深い内容が盛り込まれている。(清水祐樹)

西浦焼は、明治時代の優用の赤れんがを焼くことになった美術工芸的な美濃焼。当時の当主・五代西浦圓治が、多治見市内の妻木坂(現在の本町)に登り、二〇〇七年、同市吉町で出た赤れんがの調査を

ンネル完成までに数十万個のれんがを焼き出した。窯は五年後、工場長の西浦辰太郎が譲り受け、同市の虎溪山下に移築したとされるが、いずれも窯跡ははっきりしない。

冊子では、トンネルやれんがの写真を交え、東濃の粘土の性質やれんが製造の苦労などを紹介している。

## 東京駅使用説も盛り込む

通し、発掘現場近くで見つかった窯跡が虎溪山下の窯ではないかと推測。出土したれんがは、寸法が14号トンネルで使用されたものと同じで、似た刻印があることから、国鉄用として当時の東京駅建設工事に使われたのではないかと、この仮説も述べている。

また、耐火物製造販売会社「美濃窯業」(瑞浪市)の創立に深くかわり、東京のれんがが会社で実際に東京駅の赤れんが製造にかかわった太田真一さん(一九九二―一九八一)も紹介している。

安藤さんは「西浦焼の赤れんがは市の大切な文化財。もっと多くの人に知ってほしい」と話している。

冊子はA4判、十二ページ。百二十冊発行し、市内の図書館や中学・高校、市文化財保護センターなどに寄贈された。

問い合わせは同センター 電話0572(25)8633へ。



冊子を手にも「西浦焼の赤れんがのことを多くの人に知ってほしい」と話す安藤さんⅡ多治見市生田町で

の成果 中央線 調査 国鉄 東京 旧トン